

# 朝風

## 第5号

発行 仙台市スポーツ少年団  
責任者 広報委員会  
印刷 (有)協和プリント



SENDAI

(平成11年度)

団員数	274	名
指導者	745	名
指導者	122	名



本部長 菅原 壽

### 地域に根ざした活動を

スポーツ少年団活動は、地域における「子どもの、子ども達による、子ども達のための」スポーツ活動です。スポーツ少年団活動は、スポーツの好きな子ども達（スポーツを好きにさせる子ども達も含めて）が集まり、指導者や親、そして地域の人達の助けを借りながら活動していくものです。

そのねらいは、「スポーツを通しての青少年の健全育成にあります。単に競技記録の向上や競技会の勝利だけを目指すものではありません。

しかし、現状は必ずしも理想どおりにはいっていません。事務局に訪れる体育振興会の会長さん方からも「スポ少は、地域活動に背を向け、今日は○○試合、今日は○○試合と参加協力をしてくれない」とのこと。これでは地域に根ざした活動は望めるべくもなく、また、地域から認知され応援してもらえないのではないのでしょうか。地域に根ざした活動どころか、地域から遊離した私的な団体ではないのではないのか？子ども達に協調性と連帯意識を身につけさせようとのねらいは、反対の教えになっていくことに気づいていないのではないかと。

少年団活動は、公共的性格を持った活動であり、個人的私的な集団の活動とは一線を画さなければなりません。そのためには地域のスポーツ少年団でなければなりません。

この「地域の」の意味するものは、単に地域にあるというのではなく「地域住民みんなのための」という公共性を意味しているものです。青少年の健全育成は、一人の力で出来るものではなく、地域全体で育てることが原則であり必要なのです。

### 指導者研修会及び登録説明会

平成十二年度の登録説明会が、仙台市体育館に於て三月十九日に行われましたが、それと共に指導者と母集団研修会が登録説明会の前にあり、今回は、仙台南と泉警察署少年警察補導員お二人を迎えて講話をして頂きました。

現在の少年達の現状をお話し頂きましたが、昔とは違い、現在の家庭環境では母親の不在、金銭的余裕、テレビ等の情報豊富さが子供達への身心のアンバランスを生んで横道へそれる子供達を作っているのではないかと。

ここでスポーツ少年団の必要性が出てくるものと考えられます。学校終了後の時間帯、休日等、家庭

これは一部の指導者や親がスポーツ少年団を私物化し、活動を進めているところに問題があるのではないのでしょうか。青少年の健全育成の性格を持つスポーツ少年団が出来る時、各種スポーツで汗を流す、一生懸命やりますと余計なことは考えられませんが、指導者から礼儀作法やチームプレーを教わり仲間のこととを思いやる気持ちも出てきます。それと共に試合等があれば普段あまり会話の出来ない父親も協力し応援、と一挙両得。近々学校も週休二日制になります。ますます地域の協力体制が必要となって参ります。登録時には多くの子供達に声掛けし、一人でも多くの加入を進めましょう。と考えるのは私だけでなく、スポーツ少年団の指導者であれば一度はお考えになられていると存じます。これからは皆様のご協力を得て頑張つて参りたいと存じます。

(常盤節 記)

### 平成十二年度 スポーツ少年団認定員養成講習会を開催

平成十二年一月二十九日(土)・三十日(日)の二日間 にわたり仙台市体育館会議室にて行われた。出席者は二十九日一七二名、三十日一七五名で二日目は市外からの受講が増えたために増員になった。

相沢県スポーツ少年団副部長の開講の挨拶の後、十三時三十分より講習会が行われ、どの受講者も真剣に話しに聞き入り、メモ等をとっていた。目にしたのは女性の受講者が多く、全体の三分の一くらいになっていったように見えた。

二日目も九時二十分より講習が始まり、昼食を食さみ閉講式まで予定どおり講習会が進み、認定証交付となった。どの受講者も、二日間の熱のこもった真剣な講師の話の聞き、これからの少年団活動への希望と熱意を胸に晴ればれとした顔であった。

(椎名二男 記)

## 大野田サッカースポーツ少年団

青木俊輔

白老町スポーツ少年団の皆さん、ようこそ仙台へ！  
 仙台は伊達政宗が治めた城下町で、皆さんの住む白老町とは歴史的に深いつながりのある町です。今年の五月には、人口が百万人を超える大きな町になりました。町の中心部には広瀬川が流れ、けやき並木などの緑も多く、杜の都の名にふさわしいきれいな町です。一週間後には、夏の東北三大祭りのひとつである仙台七夕が始まります。今回皆さんは、残念ながら見る事ができないと思いますが、今度来る時は、ぜひ見てほしいと思います。

名産品もたくさんありますが、これから皆さんが行く笹かま館では、できたての笹かまぼこをぜひ食べてきて下さい。

僕たちは、皆さんが来ることをとても楽しみにしていました。仙台も自然の多い町ですが、北海道の広い大自然の中で生活している皆さんとスポーツのことはもちろん学校のこと、友達のこと、遊びのことなど、いろいろな情報交換できたらいいなと思っています。せっかく仙台に来たのですから、この三日間で、スポーツを通じて、皆さんの友達を作って、皆さんの心に残る思い出を作って行って下さい。僕たちも一緒に、楽しい思い出をたくさん作ろうと思っています。そして、またいつか、皆さんに会える日が来ればいいと思っています。家族のもとを離れ、不安なこともあると思いますが、遠慮しないで話して下さい。安心して仙台での生活を楽しんで下さい。よろしく願います。



## 白老町との交流

白老町スポーツ少年団と歴史姉妹都市として交流を深めて参りました仙台市スポーツ少年団との交流も、今年で十三回目を迎えました。

当初、来仙訪問団の一員に、白老町野球スポーツ少年団の皆さんが、訪問されたことがきっかけとなり、交流が始まりました。

仙台市立片平小学校との姉妹校だったこともあり、交流を希望されましたが、片平小には野球スポーツがありませんでした。

仙台市では、スポ少野球部会に委託されて、今日に至りました。本部事業として取り組みましたのは、平成九年度からで、今回の交流で、三回目を迎えることになりました。

平成十一年度参加団は、リーダー、サッカー、バスケット、野球でした。

平成十二年度白老町訪問の際は、皆さんの種目団が、参加されることを期待しています。

## 白老町スポーツ少年団

交流会に参加して

私達家族は、今年四月に、福岡県の博多から転居してきたばかりです。また息子は、バスケットを始めまだ3ヶ月程しかたっていないので、バスケット関係の行事などは、見るのも聞くのも初めてのことばかりでした。

会場の手配やセッティングから、食料の買い出しや、料理、ゲームの準備など、だいぶ時間もかかりました。百人分のカレー作りなんてしたことなかったもので、仕上りについては、とても心配でした。ゲームも楽しんでもらえるか気になっていました。当日も、あちらこちらとバタバタしていた、皆さんと、直接おしゃべりできなかったのですが、「カレー、おいしかったです」と何人かの方々から声をかけていただいて、とてもうれしかったです。また、会場の中から時々聞こえてくる「ワァー」という歓声にも、ほっとしながら、次の準備へと、心がはずみました。

南光台東ミニバスケット 金野祐の母



## 福室レイカーズ 吉田 彩加

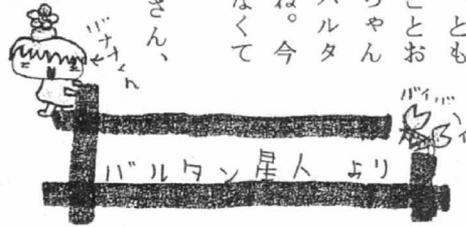


「こんにちは」  
北海道のしらおい町のバスケットクラブのみなさん、

交流会は、とつてもとつても楽しかったです。また今

度いっしょに試合をしましょう。ともみちゃん、やよいちゃん、私のことおぼえていますか？私は、マチちゃんにあだ名をつけられたバナナ（バルタン星人）です。また仙台に来てね。今度は、ミニバスケットで来るんじゃないかと友達として、来てね。

じゃあ、しらおい町のみなさん、「さようなら。」



## 福室レイカーズ 阿部 雅之

ぼくの家では、とまるだけでつまんなかったと思いました。

ぼくとしては二日間が短く感じて、もう二日ぐらいはとまってもよかったんじゃないかなあと思いました。

北海道の話しをもう少し聞きたかったです。六年生最後なので、白老町でのバスケットボールをがんばってください。

## 館レインボースターズ 加藤 将

館小学校のレインボースターズで七番をやっている将です。北海道に、元レインボースターズの古谷君という僕達の先輩がいます。また会いたいですね。さようなら。

## 南光台東ミニバスケット 清水 奈巳

北海道の白老の人達が来ると聞いた時、びっくりしました。早く七月三十一日になってほしいなあと思いました。試合の日までに強くなりたいなあと思いつながら、一生けん命練習しました。

試合当日、東小学校に集合した時に、初めて白老の人に会ってみて、強そうだなあと思いました。試合をしてみてもやっぱり強いと思いました。

試合が終って、コミュニティーセンターに行ったら、お母さんたちが、カレーパーティーの用意をしていました。それから席を決める時にだれとおなじグループになるかわくわくしました。席が決まって私の前があべさんと、右どなりがやよいちゃんという子で、左どなりがさくら子ちゃんという子でした。となりの二人の子とあべさんとは仲良くできたけど、あとの三人とはあまり話すことができませんでした。でも、やよいちゃんとぶつちうをしようやくそくしました。私は、郵便番号は知らないのですが、番号をしらべて手紙を書きたいと思います。

## 館レインボースターズ 太田 桃子

しらおいのみなさん、こないだの交流試合はどうもありがとうございました。みなさんと試合できてとてもうれしかったです。また、みなさんと試合できたらいいと思います。それから北海道にいきななあと思っています。私は五番です。また会える日をたのしみにしています…。

## 福室レイカーズ 監督 大村 正二

今回の交流会に参加させて頂き、私も微力ながらお手伝いさせて頂きましたが、感想を少しのべさせて頂きます。

私、又は福室レイカーズとしてはホームステイを少し手伝ったくらいでしたが、周囲の方々は本当によくやって頂いたと思います。

交流試合のかき氷、コミュニティーセンターでのカレーパーティーなど細かな配慮が、見受けられました。聞くところによると白老町の子の中には、かき氷をはじめ食べる子もいたようで、地域間交流ならぬことでしょう。当日はかなり暑く気分を悪くした子もいたようですが、日程については検討の余地はないのでしょうか？また、時間的スケジュールがハードのような気がします。もう少し余裕をもてればもっと良いと思います。いづれにしても、夏休みの良い思い出と経験をしたと思いますので、肥大化せずに継続して頂ければと思います。

## 冬山のつどいに参加して

三班

私は、この「冬山のつどい」に行く前はすごくドキドキしていました。それに心配していたこともありました。「最後の日のみんなで山の上からすべってくる時、みんながうまくっているのに自分だけおかれてたらどうしようかな」とか、いっしょのへやになる友だちとは、仲よくなれるかなとの心配がありました。

でも、行ってみればそんな心配はありませんでした。バスの中でも楽しくできました。

「パラダイスロッジ」についてごはんたべてまちにまったスキーの時間。一ねんぶりのスキーだったのでうまくできるかな?と思いました。最初はリフトにのらないでカニさん歩きで、と中までのぼって右左にまがりながら下まですべりました。そのとき私は三班にうりました。でも三班に男の子が一人だけいたので二班の女の子が三班にきました。はじめは八の字などのれんしゅうをしました。全員が女の子なのでとても気が合いました。すごくさかきゆうなところもあったし、ぜんぜんきゆうじやないところもありました。一月六日の日はあまり天気がよくなって、午後からは、雨がふってしまいびしょびしょになってしまいました。

でも私はこの「冬山のつどい」に参加してとてもスキーも上たつたいろいろな友だちができたのでとてもよかったです。

## 冬山のつどい

阿部 歩

一月五日、冬山のつどいの初日である。ぼくは去年も参加しているが、でも少しきんちようしていた。バスに乗ってしまうときんちようがとぎれてきた。

そして、ゴンドラにみんなで乗ろうとしていたが、こんでいたので乗るのに時間がかかった。この前の研修会で知り合った、和彦君と光洋君としゃべっていたので楽しくゴンドラに乗れた。

ゴンドラからおりて、少し歩いてロッジについた。ロッジの三階に行つて、おにぎりを食べた。その後色々説明を聞いて、スキーのブーツやスキー板を合わせた後、坂を少しのぼった所で先生にすべりを見もらった。みんな一人ずつすべっていき、先生がそれを見て班の人を他の班に移ってもらうことがありました。ぼくは少し不安でしたが、一班の人は全員移りませんでした。

そして、班ごとにわかれて活動しました。まだ、あまりなれてなかったため、みんなの足を引っぱってしまつた。めいわくをかけてしまうのがなげなくていやだった。でもまだ完全にコツをつかんだわけじゃないけど少しだけつかんだ気がした。ちょっとだけ、自信がわいてきた。

夜、みんなでわいわい話せて、楽しかった。知らない人もいたけど、時間がたつにつれて、仲よくなつていった。そういうふうに色々な人と仲よくなるのがおもしろかった。

## 感想文

五班班長 長谷 優太

僕はこのスキー教室に参加していろんなことを学びました。特にスキーをしたことが一番楽しかったです。このスキーのおかげで、僕は前よりスキーが大好きになりました。

それに僕は、夜にいろんな人と楽しい話をしたりすることが楽しかったです。

僕が改めて思ったことは、やっぱりどんなスポーツにもきそは欠かせないものだ、このスキーを通して改めて理解しました。

最初にきその練習をしたときは正直言って疲れるしめんどくさいしあきてくるから、最初の日は正直いやだったけど、次の日、僕たち五班は四班といっしょに山の頂上からいっきにすべりました。その時にきのう教えてくれたカーブやブレーキのことがやりに立ちました。もし、きのうあれほどしっかりれん習していなかったらおそらく大げがしたと思います。こういう大げがしなかったりスキーが楽しくなったのは千葉先生や、先生のおかげです。どうもありがとうございます。

僕はこの教えられたことをサッカーにも生かして前より基本に忠実になろうと思います。

そして、このスキー合宿のことはいつまでたっても忘れません。 おわり

## スキーの感想

土井拓也

ぼくは、このスキー教室をやってよかったことは、朝いつもは八時か七時三十分ごろにおきていたのここに来て朝早くおきれるようになりました。

次にスキーのことです。スキーは初めのうちは、あまりすべれなくていやになってやめたくなったりすべれるようになったらすぐおもしろくなりました。あとコーチはおしえるのがうまくてすぐおほえました。あといろいろなことをやっておもしろかったです。このスキーをやってよかったと思います。



## 感想文

六班班長 中村 馨

一月五、六、七、この三日間はスキー教室がありました。ぼくたち加茂ミニバスから五人行きました。ぼくは六班で、ミニバス三人同じ班でした。

そして、パラダイスロッジに着きました。昼ご飯を食べるまで、スキー板をはいたまま歩いてみました。簡単だと思ったけど、やってみたらかなりむずかしかったです。すべってもうまくすべれませんでした。あるていどたいらな所ですべったら上のぼけてみました。なぜかのぼるのはけっこううまくできました。だけど全然できないがありました。曲がることができませんでした。何度やってもできませんでした。けっきょく曲がることができません。一日目の練習が終わりました。そして時間がすぎていてねる時間になりました。しかし、すぐにはねむれませんでした。

そして二日目の朝がきました。二日目は、最初にまた曲がる練習をしました。なぜか一日目にくらべてうまく曲がれました。そして二回、三回と増やしていきました。それからすべりに行きました。練習したかきもあってよくすべれました。その後リフトのつてみたら、これも楽しかったです。数回すべった後、昼ご飯を食べる場所を移動しました。そしてかなりすべってリフトのりました。ロッジにもどったけど、ぼくはまだスキーをやりたかったので三日

目が楽しみでした。

二日目、リフトのりて他のゲレンデにすべりに二、三班といっしょにすべった。斎藤先生が、「十あるうち君達は一つしかスキーの楽しさを知らない。けどうまくなれば、もっと楽しみが増える」ということを教えてくれた。少しずつうまくなっていくと、それまでただすべっていた時のおもしろさよりもっとおもしろくなっていた。

ぼくは、六年だからもう冬山のつどいには行けないけど、色々な体験ができました。

他のスポーツと違って自然が相手のスキー。きびしい条件の中で滑ることもあります。仲間を思いやる心、協力する気持ちも伝えたい。しかし、逆に自然が相手だからこそそのスキーの魅力もあります。多くの子供たちに、この楽しさを伝え続けていきたいと思ひます。

毎年、最後の日、子供たちの「ありがとう。楽しかったよ。」という言葉と、キラキラ輝く瞳に見送られると、三日間の疲れも吹っ飛び「また来年」という気持ちになってしまいます。私たちがはじめて教えた子供たちも、もう二十歳になつてはいます。まだスキーを続けていてくれるかな？ 私たちをもう超えてしまったかな？ なつかしいような、淋しいような…。「冬山のつどい」のOB会なんていうのはどうでしょうか。

## 青葉区スポーツ少年団

青葉区支部長

## 創立一周年を迎え

佐藤 伸光

仙台市スポーツ少年団から五区全てに支部組織が出来、早いもので一年が経過しました。

これは仙台市から助成を受けているスポーツ団体全てが各区に出来た区体育協会に加盟することになったからです。各区に設立のための実行委員会が出来、何回も協議を重ねようやく昨年の三月に五つの区にスポ少支部が誕生した訳です。支部を立ち上げ、従来の種目別交流主体から区組織編成によりきめ細かい活動と組織の強化が図れました。

しかし、未だ青葉区内スポ少が全て一同に会しての交流や協議をするとなると、馴染み不足からでしょうがもっともっとPRや活動の活性化を図るべきと反省しております。青葉区体育協会加盟の皆さんともスポ少の実情を話したり組織のPRを行う等、会議は欠かさず出席し勉強しております。

また、三月十一日に開催した「ニュースポーツゲイムラリーinAOBA」には二四〇名を超える団員、保護者、指導者の方々に参加を頂きました。初の青葉区支部としての主催行事でしたが予想以上の参加があり、役員一同一つの実績が上がり喜んでおります。

これからも区内各団の意向をとり入れ、種目を超えて青葉区スポーツ少年団活動を促進すべく努力をして参ります。皆様方には更なる御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 若林区支部の

若林区支部長

## 活動状況について

安中 俊作

本支部は、平成十一年三月十八日に各団の代表者の出席を得て、支部規約の承認を受けるとともに、各役員等の選出を行い、発足した。

スタート後は、特に目立った活動はしていなかったが、十月に至り、大都市育成モデル地区事業の環境として、各支部ごとに事業を実施することが決定されたことを受け、実施種目、開催場所及び日時等について検討を行い、十二年三月五日(日)に南小泉小学校の校庭を借用して、『みんなでゲームを楽しもう』と銘打って実施した。

当日の会場は、風が強かったものの太陽が顔をのぞかせ、「綱引き」、「キックベース」、「的当て」、「輪投げ」及び「ダーツ」の五種目にわたり、それぞれ子供たちの歓声が響きわたった。

参加者は、区内のスポーツ少年団員に加え、特に子供会単位での参加があり、付添いの父兄を含め約二五〇名となった。

各種目の実施にあたっては、特に、南小泉スポ少関係者の多大なる協力をいただいたうえ、付添いの各父兄の協力が得られ、混乱もなく無事終了したことに對し、感謝申し上げます次第である。

なお、今回のイベントを実施してみて、子供たちの日常生活の中に遊びの場を提供してやることにがいかに大切かを実感したことを書き添えたい。

## 新たな

泉区支部長

## スポーツ少年団

筒井 久美子

十数年前、歴史あるスポーツ少年団として活動されていきました少年団でしたが、二市二町合併後、仙台市スポーツ少年団として設立、現在に至りました。昨年度、五区すべてが支部組織の運びとなり、当区では十一年三月、設立総会が開かれ、新たな泉区スポーツ少年団として誕生いたしました。

事業といたしまして「スポーツウォークラリー」を行いました。三〇〇名近くの小学生、保護者の方々、また団員、指導者、育成母集団のたくさんの方々の御参加を頂き、種目を超えた交流会、ニュースポーツを一日楽しく過ごしました。

企画の目的といたしまして、団員増員を図るとともに、スポーツ少年団を多くの方々にとって頂く目的でもあります。

また、支部発足とともに指導者協議会が同時に設立されました。

「親と指導者のための救急法」を泉消防署救急隊の方々の御指導で講演と実技を行いました。母集団、指導者の方々九〇名が熱心に受講されました。発足一年目ですので指導協と共催で行いました。

平成十二年度は、泉区体育協会の仲間に入れていただくことになりました。泉区スポーツ少年団の発展を願ひ、皆様の更なる御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

## スポ少加入二年目を迎えるにあたって

### 今年もドラゴンズ旋風

#### をまき起こせるか!

少年野球鶴巻ドラゴンズ 丹野雅光

我がチームは十四年前、町内会の道路や公園空地で野球をしていた子供達への安全な場所提供と良き指導者の下で野球をさせてあげたいという思いから、中野新町町内会の父兄の方々が中心となって、少年野球チーム「新町ドラゴンズ」が誕生しました。

その後、鶴巻小学校学区内から広く部員が集まるようになり、チーム名を部員が通っている学校の名をとって、現在の「鶴巻ドラゴンズ」と改名し現在に至っております。

この間、後援会を始めとする数多くの関係者に支えられ、そして、各種大会に招待していただきました伝統チームの方々に励まされながら存続してまいりました。お陰様でOB部員も七〇余名となり、それぞれの進路先で活躍中であるとの便りが届きますと、歴史を感じさせるチームになってきております。ドラゴンズを巣立って行ったOB部員が少年野球で培い、育まれた精神・経験を生かし、社会に貢献できる人材となり、再び指導者として戻ってくることを願っている所存であります。

スポーツ少年団に加入したのは、昨年四月からという事で、会社であればまだ新入社員ということになり、まだまだ経験不足の状況にあります。加入する数年前からスポーツ少年団への加入について父

母の間でも随分議論し悩んでいましたが、多少事務量が増えても「子供達に良い思い出を残してあげたい」と考えたところ、その悩みもふっ切れることができましたようです。

加入後は、仙台市スポーツ少年団野球部会主催の春季大会から始まり、ジャンボ大会、秋季大会、新入大会など、これまで経験したことがなかった各種大会に目まぐるしく参加することができ、子供達にとっては少年野球の熱き思い出としてアルバムの一ページに深く残ったことと思います。

また、成績のほうも運を味方にすることができ、仙台市スポーツ少年団野球部会主催の春季、秋季大会はそれぞれベスト8、学童県大会出場、仙台市大会ブロック優勝などと、ますますの成績結果を残すことができました。その中でも仙台市スポーツ少年団野球部会主催の新人交流大会では、初出場ながら誰もが予想しなかった準優勝カップまで獲得することができたことは、日ごろ六年生の控え選手としてあまり試合出場経験の少ない子供達にとっては生涯忘れることができない良い思い出となり、そしてスポーツの楽しさや感動を与えていただき、これが少年野球の醍醐味のかなあと感激いたしました。このような経験ができたのも、スポーツ少年団への加入影響があると同時に、我がチームと対戦していただいた各チームの選手、関係者を始め、各種大会を開催していただいた事務局の方々のご尽力のお陰であることを忘れることなく感謝いたしております。昨年はスポーツ少年団への加入効果もあり、練習試合も含めますとちょうど一〇〇試合がありました。

試合会場が遠方になったり、同じ日に大会が重複し送迎が大変であったりと、事前に予期できない状態に陥ることも多々ありましたが、父母会が一致協力することによりそれらの壁を乗り越えてきました。また、各種研修会等の行事にも参加させていただき、指導者や父母の方の様々な方々との出会いを通じて見聞を広めることができ、チーム運営等に反映させていいただいております。

現在、困っていることは新入部員の入部がなく、部員は減少傾向にあり、今後のチームづくりが懸念されてきております。少子化の影響や家族のライフスタイル変化など要因としては様々あると思うのですが、近年の各種ゲームソフト等により、従来と違ったスタイルで野球を楽しむことができ、時間や天候に左右されずに一人でPLAYすることが可能になってきております。休日でも外で遊んでいる子供達の姿を見かけることが少なくなった今日、今後スポーツ少年団が地域へどのように根ざして行ったら良いのか、二十一世紀に向けて子供達に魅力あるチームづくりが心掛けていく必要があると感じている今日の頃です。

最後に、スポーツ少年団加入二年目を迎えるにあたりまして、伝統チームの方々に迷惑がかららないよう、そして、二年目のジンクスと言われないよう、ただ今、高野奨監督を中心にして新チーム指導に取り組んでおります。試合等でお会いした際にはご指導方をよろしく願います。試合等でお会いした際にはご指導のますますの発展を切に願ひまして近況報告いたします。

### ジュニアリーダースクール

今年も、三月二十四日から二十六日に泉ヶ岳青年の家で行われました。一一名の参加者に、リーダー四名。リーダーから、ジュニアリーダースクールの趣旨(ねらい)について、スポーツ少年団のリーダーとは何か?望ましいスポーツ少年団のリーダー像。リーダーの役割。ルールとマナー。リーダーとしての実践・行動。自分の不足なところをみつける。そして、どのようなスポーツ少年団のリーダーになりたいか?などの話があり、団員全員が係の役割を分担し活動がスタートしました。

夜に具合が悪くなった子もいましたが、やさしいリーダーのおにいさん、おねえさんの声がかけて、朝には元気になっていました。全員の食事の準備ができるまで待ち、一斉に食事をしたり、みんなの前でリーダーシップをとったり、雪の中での目かくしの鬼ごっこ。最初は、おそろおそろ歩いていたり子供達も自然と雪合戦し、靴もくつ下もびしょぬれになるのも忘れて、夢中になって遊んでいました。家では経験できないものだと思います。

この二日間で、リーダーとは、決してチームの中でプレーがうまい人なのではなく、みんなをまとめたり、自分がまずやってみせることができる人で、思いやりのある信頼される人物だということがわかってくれたようでした。

二日間、一一名の団員のために企画・行動してくれたリーダーの皆さん、御苦労さまでした。元気に帰って来た子供達が、将来、あなた達のように成長することを願ってペンをおきたいと思います。

(田原龍子 記)

### 仙台市スポーツ少年団

#### 平成十一年度入団式

一〇八単位団・二七〇〇人が集う!!

新生スポーツ少年団活動の幕開け、躍動の起点として位置づけ、平成四年度から実施してきた入団式は年ごとに拡大し、大きな盛り上がりを見せています。

今年度は、スポーツシーズンに相応しい五月八日(土)仙台市体育館を会場に、仙台市スポーツ少年団一〇八単位団・二七〇〇人の団員や指導者が参加し、盛大に開催された。

各団のプラカードを先頭に団旗・優秀団員、そして、団員が青葉・宮城野・若林・太白・泉の区ごとに、国見小学校小萩吹奏楽団の演奏する行進曲に合わせ、堂々と晴れやかに入場行進する様子はさわやかな歓喜と大きな活躍の期待で、体育館内は一杯に包まれました。

お祝いには、仙台市小松教育長、仙台市体育協会・山田副会長が見えられ、スポーツを通じての健康な身体と健全な心の育成、団活動への称賛など、励ましとお祝いの言葉をいただきました。

続いて、平成十年度各団において優秀な成績を修めた一二五名の団員に対し、表彰状・メダルが授与され、また、新しく加入した七団体には本部から団旗が贈呈され、仙台市スポーツ少年団の仲間入りをしました。

式典終了後はつなひきやユニカールなどのゲームによる交流会を行い、競技種目を超えた団体同志の友好と親睦を大いに深めました。(大友一史 記)

### 平成十二年度の入団式

#### 登録団みんな参加しよう

### 編集後記

一、初めて新聞を作る者には、新聞は魔物にみえてくる。

一、原稿を依頼する時には、紙面に限りあることを忘れるべからず。

一、月日が過ぎてからの原稿依頼は慎むべし。

一、早々に行事を考慮し準備を進めるべし。

一、四苦八苦しながらでも、頭数集まれば知恵は出てくるものである。

一、しかめっ面でへたに考えるより、笑顔で前向きに事を進めるべし。

一、良き仲間集まれば、すべて良好に走り出す。

今回、私共全員初めて新聞作りをする者ばかりで、皆様方へ原稿をお願いする時も多々ご迷惑をおかけ致しましたが、素人なりに何とか形になりましたのでご笑納下さり、お読み頂ければ幸いです。ありがとうございます。

常盤 節	田原 龍子
木須 勇治	相澤 一夫
庄子 正信	椎名 二男
大友 一史	